

<p>奈良市</p> <p>手をつなぐ親の会だより</p>	NO 349	平成29年2月3日(金)	
	発行	奈良市手をつなぐ親の会	
	会長	小西 英玄	
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1	
		奈良市総合福祉センター内	
		Tel 0742-71-0770	
		http://naraoyanokai.jp/	



1月28日。今日は少し温かいのかな？



早朝、飛火野でおこなわれる「春日の大とんど」にお正月の締め飾りをもっていきました。

二月に入ろうかというのに、うっすら汗ばんできました。

家の庭では、居候の5匹の猫も朝から活動を始めています。

平成29年がはじまり、「新成人の集い」「新年の集い」「地区懇談会」等々忙しい日々が続いています。

1月もあつという間に過ぎ、今年も、あと11か月。「小寒」「大寒」そして「立春」と季節は春に近づきつつあります。

1月26日で相模原市津久井やまゆり園の事件から6か月がたちました。

奈良県自立支援協議会では、このような事件が奈良でも起こらないようにどうすればいいかを検討しています。

容疑者が元職員であることを考えると、福祉内部でのスタッフの人材育成に課題があったのでは・・・

また、手法技法的な研修は行っても、人道的な研修は少なかったのかもしれない。

反省課題です。

そして、福祉スタッフへのケア(支援する人への支援)も配慮(合理的配慮)が必要となります。

障がいをもつ人への合理的配慮・人権・虐待解消などを求めるのであれば、当然支援する方(支援スタッフ)にも、あつてしかるべきだと考えます。

そして、そのことが実現できて初めてノーマライゼーション(障がいのある人もない人も住みやすい街)が実現するのではないのでしょうか。

ともすれば、私たちは、福祉職員は子どもたち(障がいをもつ人たち)を支援するのが当たり前の感覚で接してきたかもしれません。

低賃金 長時間勤務 長時間残業 36協定による残業が現実の福祉職員。

厚生労働省も職員の定着支援施策を始めました。(保育士への助成のような)

法人の労務管理がキッチリなされている施設には補助率を上げるシステムです。

私たち、当事者団体として

相模原市津久井やまゆり園の事件の再発を起ささないために何ができるか？

私たちの子ども(障がいをもつ)を支援してくださる福祉関係者に、感謝の気持ちを伝えることだと考えます。

良いことはよい「ありがとう」の気持ちを伝えましょう。

改善すべきことは、「この様にすれば利用者の方にもわかりやすいですよ」と提案しましょう。

決して、否定からのメッセージは送らないことです。

この積み重ねが、奈良市の施設間格差の是正につながるのでは・・・

そして、津久井やまゆり園の事件が、奈良を含む全国で今後絶対に起こらないためにも。